学力向上アクションプラン　～洛西方式０９～
（「学習指導要領」の改訂を踏まえた本校の学力向上実践研究）

京都市立洛西中学校

○　研究テーマ　「学力水準の向上と学力格差の解消を実現する６つの柱」
～　知識・技能を活用して課題を解決するために
必要な思考力・判断力・表現力等をはぐくむために　～

○　研究テーマ設定の理由

今回改訂された学習指導要領によれば、「学力の重要な要素」は、
①　基礎的・基本的な知識・技能の習得、
②　知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、
③　学習意欲　である。

さらに、この学習指導要領で改訂された内容項目のうち、先行実施が可能なもの、あるいは先行実施することによって、本校生徒にとって有益であると判断されるものを析出し、今年度の研究実践のなかに取り入れたいと考えている。

本校生徒の学力は、ここ数年来のさまざまな取組の甲斐あって、全体としては合格点をつけてもよい位置にいるが、わが国の中学生全体の課題となっている思考力・判断力・表現力等の学力低下傾向においては、本校生徒も全く例外ではなく、同様の課題を抱えている。

さらには、昨今、格差社会といわれるわが国経済の構造変化が、本校校区の各家庭においても確実に浸透しており、各家庭の経済格差（本校の就学援助率３０％超）と生徒の学力格差との相関関係については、我々の予想をはるかに超えた深刻な実態として認識しなければならない。そしてそれは、単に基礎的・基本的な知識・技能の習得の面にとどまらず、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の、いわゆる「活用型」の学力面においても、顕著にみられる現象である。

このような課題を見据え、思考力・判断力・表現力等という観点から、学力を育てる（学力水準の向上）ことと、各家庭の経済格差に影響を受けない学力をつけること（学力格差の解消）を目指して、研究実践に打ち込みたいと考えている。

そこで、今年度は、「学力向上アクションプラン～洛西方式０９～」と銘打ち、「学力水準の向上と学力格差の解消を実現する６つの柱」　～　知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をはぐくむために　～　を研究テーマとする研究実践を推進することとした。

「学力水準の向上と学力格差の解消を実現する６つの柱」は以下の通りである。

１，授業時数確保の取組	２，授業改善の取組	３，家庭との連携の取組
４，異校種連携の取組	５，地域との連携の取組	６，土曜日活用の取組

１，　授業時数確保の取組

①　年間総授業時数を確保しつつ、１単位時間を４５分・週時数を３２コマ（昨年度までは３１コマ）とし、**弾力的な時間割を編成**する。（７校時を週２日実施）

②　教科において、観察・実験、レポートの作成や論述などの知識・技能を活用する学習活動を充実すべく、**特定の必修教科の授業時数を増加**する。

③　授業時数の増加は、主として子どもたちがつまずきやすい内容等について確実な習得を図るための**学年間での反復学習などの繰り返し学習**や、**観察・実験やレポート作成、論述などの知識・技能を活用する学習活動を充実**させることを目的とする。

④　マスタリー・ラーニング理論に則り、補充的な学習・発展的な学習で、個に応じた指導を行うための必要な時間を確保する。

→　学習指導要領を先取りする形で、国語・数学・理科・保体・英語を中心に授業時数を増加する。（２９・３０・３１コマ目及び選択教科を活用。３２コマめは「学びの時間」として、自主学習に充てる）。

⑤　朝学習１０分間を活用し、**重点的な指導や繰り返し学習が必要な事項**の習熟に努める。

２，授業改善の取組

（１）　基礎的・基本的な知識・技能の習得

①　学習指導要領が示す内容事項の中で、子どもたちがつまずきやすいといった観点から、**重点的な指導や繰り返し学習が必要な事項の例を洛西版「重点指導事項例」として整理**・提示（小学校とも連携）。

②　習熟度別・少人数指導や補充的な学習といったきめ細かい個に応じた指導などを必要に応じ**外部人材の活用**を図りつつ行う。（地域との連携）。

③　外部人材の活用、ＩＣＴの有効活用及びｉプリントの活用を通して、**放課後の補充学習や発展学習を充実**させる。（地域との連携）。

（２）　思考力・判断力・表現力等の育成

①　各教科の授業においては、**「言語活動の充実」・「伝統や文化に関する教育の充実」・「体験活動の充実」**に力を入れる。

②　そして、子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむために、**観察・実験やレポートの作成、論述など体験的な学習、知識・技能を活用する学習などを行う。**

③　**ＰＩＳＡ調査や全国学力・学習状況調査の問題を分析**する。（小学校とも連携）。

④　各教科において、「習得」型及び「活用」型の学力とはどういう学力なのかを検証し、**知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習活動**を推進する。

（３）　**学習意欲の向上や学習習慣の確立**

①　**家庭学習も含めた学習習慣の確立を図る。**（小学校とも連携）。

②　**語学や漢字など、各種検定への取組など具体的な目標設定を工夫**する。（小学校とも連携）・（地域とも連携）

③　**改善計画を策定し、学習意欲や学習習慣などを含めた学力に課題を抱えている子どもたちへのきめの細かい指導の充実**を図る。（小学校とも連携）。

３，家庭との連携の取組

① **家庭での学習課題（宿題や予習・復習）を適切に課す**など家庭学習を視野に入れた指導方法も重視する。

②　**家庭での基本的生活習慣の確立**を図り、**早寝・早起き・朝ごはん運動**を推進する。（幼・小・地域とも連携）

③　全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の集計結果を分析し，家庭・地域との連携を深めながら，生徒の生活習慣上好ましくない習慣の見直しを図る。

④　ＰＴＡと連携を図り，「家庭と活字文化にふれる日」（ＮＯテレビ・ＮＯビデオ・ＮＯケイタイの取組をすすめる日）を設定し，生徒の家庭での生活習慣を見直すきっかけとする。

４，異校種連携の取組

①　中学校段階においては、単元に応じて小学校段階の教育内容を中学校教育の視点で再度取り上げて指導するといった工夫や教師の相互交流の一層の促進を通し、学習と生活の両面にわたる**小・中学校を見渡した効果的な指導**を行う。（小学校との連携）。

②　「生きる力」を育てるため、**小中部活動交流会の、準備から本番まで生徒自身の力**で進める。（地域とも連携）

③　小学校段階における外国語活動の指導者に関しては、学級担任を中心に、ＡＬＴや

英語が堪能な地域人材等とのティーム・ティーチングを基本とする。
（小学校との連携）・（地域とも連携）。

④　小学校段階における外国語活動の導入に当たって、小学校と緊密に連携を図る。小学校における外国語活動の内容や指導の実態を十分踏まえた上で、中学校における外国語教育への円滑な移行と指導内容の一層の充実・改善をはかる。（小学校との連携）

⑤　**地域の高等学校との連携**（出前授業などで高校における「活用型」の授業を体験する）を深める。特に、府立洛西高校・私立京都成章高校との連携を強化する。

⑥　**地域の京都経済短期大学との連携**を深め、生徒会が「実生活に活用できる学力」をはぐくむために、地域ボランティア行事を共同開催するなど、企画・運営に携わる。

５，地域との連携の取組

①　**定期テスト前（年間４回，実施日数１回ごとに８～１６日）ごとに、部活動終了後の時間帯（夜６時～７時の１時間）、数学と英語の２教科を中心に「夜の自主学習会」を開催する。講師は地域ボランティアの方にお願いする。地域回覧で募集したところ、１２名の方が応募いただいた。**

②　**全国学力・学習状況調査や学校評価などを活用**して、成果を確かめ更に改善を図る。

③　**コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用**し、地域や保護者、有識者などより多くの視点で検証を深める。

④　学校外の教育活動を活用することによって、子どもの学習や体験活動の機会の質・量両面にわたる充実を図る。そのために、**学校は子どもに学習や体験活動の機会を提供する学校外の教育活動との連携を積極的に行う。**

→　行政主導で洛西地域住民が参画する**「洛西ニュータウン創生推進委員会」と連携**を図り、「地域の活性化」について、生徒自身が、学校教育で培った知識・技能を活用して、思考・判断・表現できる機会を創出する。

→　**地域の社会福祉協議会や福祉ボランティア団体など、活動場所に困っている団体に本校の空き教室を開放**し、生徒たちとの交流の場を創出する。

６，　土曜日活用の取組

①　地域と連携したり外部人材などを活用して、**総合的な学習の時間の一環として課題解決型の学習や探究活動、体験活動などを土曜日を活用して行う。**（地域との連携）。

②　希望する小学校５・６年生と本校生徒、地域の人たちを対象に、英語検定合格を目指すなど、広く英語に興味を持てるような取組として、**土曜スクールを開設**する。
（地域との連携）・（小学校とも連携）。